高木若連結成

# 五〇周年記念誌

高木若連会

# 目　次

メッセージ
　発刊のことば・・・・・・・・・・・・・・1
　発刊によせて・・・・・・・・・・・・・・2・3
高木若連会ヒストリー
　過去の振り返り・・・・・・・・・・・・4～9
　若連の足あと・・・・・・・・・・・・・10～17
名　簿
　歴代役員名簿・・・・・・・・・・・・・18・19
　高木若連会OB名簿・・・・・・・・・・20～22
　高木若連会名簿・・・・・・・・・・・・23
　編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・24

# 発刊のことば

高木若連会　第43代会長
川　名　大　揮

高木若連会は、昭和４８年結成から令和４年をもって５０周年という大きな節目を迎えます。５０周年という記念すべき年を迎えることが出来ましたのも先輩若連の皆様並びに高木地区の皆様の温かいご支援と、ご理解の賜物と深く感謝申し上げます。

昨今においては、令和元年に市内において東日本台風による甚大な被害を受け、さらに翌年からは、新型コロナウイルス感染拡大により様々な活動が制限され、本会も今までに経験したことのない苦しい状況に直面しております。そういったなかでも、会員が心をひとつにして、活動再開の方法を模索しながら、今後の活動に向けて前向きに検討している状況です。

一時は１００名近くおられました若連会員は年々減少傾向にあり、少子化や若者の地域離れがますます拍車をかけております。しかし一方で、他の地域から高木地区に転入し、本会に入会を希望する会員も増えており、今後も時代の変遷に流動的に答えられる団体を目指して参りたいと考えております。

私自身の４０年間と高木若連会の歴史を重ねますと、地域に密着した高木若連会の活動というのは、幼少の頃から常に身近であり、いつも子供たちを楽しませてくれているもので、いつかは自分もと、憧れを抱いていたものでした。私も１８歳になり高木若連会に入会し、これまで人生の半分以上を高木若連会とともに過ごして参りましたが、本会の５０年という長い歴史に比べると、私が知り得る部分は、長い歴史のほんの一部であることを改めて考えさせられるとともに、今まで築き上げてきた歴史の重みを感じているところです。

本誌を発行するにあたって、諸先輩の皆様には本会の歴史をさかのぼり、ご自身の歴史と重ね合わせ、現役当時のことなどを思い返しながら仲間との思い出話に花を添えることが出来れば、という願いと、令和の時代に活躍が期待される、若い現役の会員には、本会が築き上げてきた５０年という長い歴史を改めて感じていただきたいという想いを込めて作成させていただきました。

この記念誌発刊を機に会員一同心を新たにし皆様の御期待に応えるべく良き伝統を守り、高木若連会として高木地区の更なる発展を担える団体として、会員一同心を新たにし努力して参りますので、今後とも変らぬご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

# 高木若連会50周年に寄せて

高木若連会　初代会長
**高　田　宗　彦**

「高木若連会」結成５０周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。
高木を愛する素晴らしい後輩の方々が、地域発展のために、一年また一年と先輩の想いを繋ぎ続けた結果、今日を迎えました。思い起こせば５０年前、高木地区に住んでいる昭和二桁生まれの若者が集い、自己研鑽と地域発展を願い、地元を愛する後輩を育てようと、みんなでアイデアを出し合い活動を始めたのでした。子供達のために水利組合の許可を得て、地域の池に魚を放して実行した魚釣り大会、盆踊り大会への協力、町駅伝競走への参加、秋祭りに高木地区を練り歩いた子供神輿の制作、それが「東部太鼓台」の立ち上げにまで発展し、本宮秋祭りに新風を吹き込み、北町、南町、東部太鼓台が並んで活気を取り戻すきっかけとなったのです。
「高木若連会」という言葉と聞いただけでＯＢは心が熱くなります。

それは自分たちが若い時代に体験した活動を思い出すからです。ことに結成に携わった仲間は「あれから５０年」と時間の経過の速さに驚いているに違いありません。

歴史と伝統は作ろうとしてできるものではなく、その土地に住む人々の生活、習慣、活動が先輩から後輩に受け継がれてできるものです。ともすれば「無い物ねだり」をしがちな世の中ですが、地域に伝わる良き「有る物探し」を目指し、会員の皆さんが持っている個性を発揮し、協力し合って活動してください。「高木若連会」は本宮地方で、最も纏まりのある行動力のある団体として高い評価を受けています。

最近、度重なる自然災害、世界的流行のコロナ禍、ロシアの仕掛けたウクライナ戦争など総てが私たちの生活を脅かしています。このような時に、「高木若連会」の存在と活動は地域住民にとって非常に心強く、心の支えとなっているのです。

最後に、未来に向かって活躍している会員の皆さんの健康を祈念し、「高木若連会」の発展を心から願い、お祝いの言葉といたします。

# 高木若連会50周年にあたって

東部太鼓台運営委員会　会長
大　浪　邦　彦

高木若連会結成５０周年を心から御祝い申し上げます。

昭和４８年発足以来半世紀にわたり、秋季例大祭はもとより、魚つかみ大会等数々の行事を『子供達にふる里の思い出を』の理念のもとに活動を継続し、青少年の健全育成に寄与された功績は、きわめて大きなものであります。これもひとえに、歴代役員をはじめ会員の方々の活動の賜物と深く敬意を表したいと思います。また、地域住民の方々の御支援により昭和 61 年に新調されました東部太鼓台は、令和元年の台風１９号による災害、その後の新型コロナウイルス感染症により３年間運行することが出来ませんでした、今年こそ万全の感染対策を講じ、東部太鼓台を運行したいと思っておりますので皆様方の御支援、御協力をお願いいたします。

東部太鼓台を新調するにあたり、当時の若連のルーツの一つに高木小学校がありました。最期まで残っていた講堂も数年前に取り壊され、校歌の歌碑が唯一残っています。

高木小学校の校歌を少し紹介します。

【空にひろがる花の雲　安達太良山は呼んでいる　高木の子供は元気な子
中略　楽しい学校つくろうよ　平和の日本つくろうよ。】

目に見えるもの、見えないものが無くなった時、人は思い出すことが困難になる時があります。古き良き伝統は希薄になりつつあり、地域に根ざし地域奉仕活動をしている会は貴重な存在になっております。貴会の益々の飛躍を祈念いたしまして、御祝いの言葉といたします。

# 高木若連会ヒストリー 過去の振り返り